



学校だより

平成 29 年度 6 月号
平成 29 年 6 月 1 日
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

「強い者が勝つのではない、勝った者が強いのだ」



～文武両道の大谷ロブランドをつくろう！～

校長 汐 満 猛

さて、3年生にとっては待望の学校総合体育大会（以後、学総体という）が6月3日からはじまります。この大会は、関東・全国大会へと繋がる大会です。中学校や高校の運動部を指導する顧問の間で「冬を制す者は春を制す。」と言われます。意味は、新人戦が終わった後、結果を分析して課題と目標を決めて寒い冬場の練習をしっかりと取り組んだ人やチームが、春の学総体を制するという意味です。表題にある「強い者が勝つのではない、勝った者が強いのだ」という、このことばは、元サッカードイツ代表選手のフランツ・ベッケンバウアーが、1974年ワールドカップ西ドイツ大会優勝時に言った言葉です。圧倒的な強さを誇るオランダ有利の決勝戦で、西ドイツが2-1で逆転し勝利します。強者が勝つとわかっていたら、試合をする意味がない。相手が強いと言われていても、弱者が勝つから面白い。そして、弱者が強者に勝つとき、そこには必ず勝利の方程式があります。それは、強者の長所や強みの部分を消し、弱者は自分の長所と強みを全面的に出すことです。勝って当たり前前の強者には、絶対負けられないというプレッシャーがかかります。逆に、弱者には負けるプレッシャーは強者ほどありません。

本校で言えば、県大会出場経験者は、相手のことよりも自分自身に対するプレッシャーの方が厄介です。オリンピックやワールドカップなどで、このプレッシャーに負ける場面を幾度となく見てきました。やるべきことは、自分の不安要素を無くすことです。無くせないときは、最小限にする。そして、対戦前のシミュレーション（想定）が必要です。試合展開を予想し、対応策を準備しておけば本番が多少は楽になります。県大会出場への挑戦者は、一途に自分の長所と強みに磨きをかけることです。

「あきらめたらそこで試合終了ですよ」は、漫画スラムダンクの安西光義監督のことばです。最初が、単行本8巻145ページ、中学生時代の三井に言った一言。次が、単行本27巻148ページ、山王戦で桜木に言った一言。実に分かり易くて、スポーツの世界に限らず、名言の中の名言だと思います。私は、ことあるごとに「あきらめたらそこで人生終了だよ」と自分自身に言い聞かせています。

保護者の皆様、5月号の「6・3・1の法則」でも書いたように、この1学期が重要な学期であることをご理解いただき、子どもと一緒にそれぞれの目標設定をお願いします。目標設定→実践→結果→反省この流れ以外に良い結果は得られません。大会期間中の食事面や応援、移動時の自転車事故防止などよろしくをお願いします。また、吹奏楽など文化部の発表も一学期中にあります。教職員一同、一丸となって子ども達を熱き思いで育てていきますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域の皆様にも重ねて、子どもの見守り等よろしくお願ひいたします。